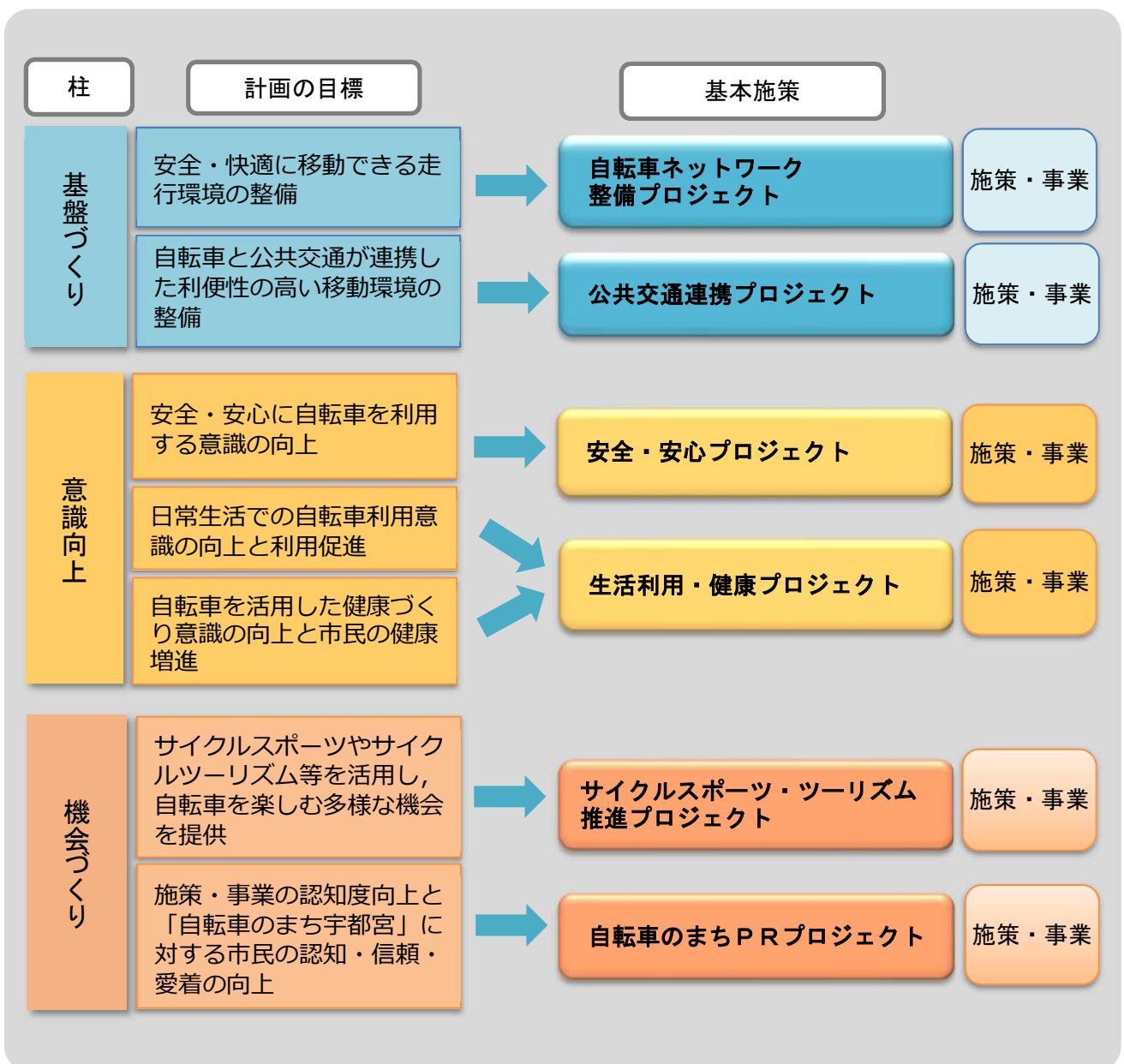


第8章 施策事業と具体的な取り組み

8.1 施策体系

「基盤づくり」・「意識向上」・「機会づくり」の目標を達成するため、次のとおり6つの基本施策（プロジェクト）を設定し、柱ごとに位置付けた施策・事業の推進により、「自転車のまち宇都宮」の実現を図っていきます。



8.2 具体的な取り組み

基本方針である、「基盤づくり」「意識向上」「機会づくり」の3区分に対応して、施策事業とそれぞれの具体的な取り組みを、次のとおり設定します。なお、自転車ネットワーク整備プロジェクトについては、別途「自転車ネットワーク計画」を策定し、取り組んでいきます。

【「基盤づくり」の施策・事業一覧】

柱	基本施策	施策	事業	位置づけ	重点	実施主体	
						行政	民間
基盤づくり	自転車ネットワーク整備プロジェクト	生活利用自転車ネットワーク整備	生活利用自転車ネットワーク路線の自転車走行空間整備	拡充	◎	○	
		サイクリングロード・サイクリングルート整備	サイクリングロード・サイクリングルート路線の整備	拡充	◎	○	
		自転車ネットワーク維持管理	既整備路線における自転車走行空間の維持管理	拡充		○	
			走行支障物件の撤去指導	拡充		○	○
	公共交通連携プロジェクト	鉄道駅周辺駐輪場の適切な管理運営・再整備	鉄道駅周辺駐輪場の適切な管理運営及び再整備	拡充		○	○
		LRT停留場付近の駐輪場整備	LRT沿線トランジットセンター、停留場付近への駐輪場整備	拡充	◎	○	○
		バス停留所付近の駐輪場整備	主要なバス停付近への駐輪場整備	拡充	◎	○	○
		自転車放置防止対策	鉄道駅周辺等の放置自転車対策	継続		○	
		中心市街地の駐輪環境整備	駐輪スポットの整備	継続		○	○
			民間事業者による適切な駐輪場の確保	継続		○	○
		駐輪場等へのICカード導入	駐輪場やシェアサイクル（レンタサイクル）へのICカード導入	新規	◎	○	○
		シェアサイクル（レンタサイクル）の充実	レンタサイクルの適切な管理運営及びシェアサイクル化の検討・実施	拡充	◎	○	○
	観光拠点等へのシェアサイクル（レンタサイクル）導入検討・実施		新規	◎	○	○	



【「意識向上」の施策・事業一覧】

柱	基本施策	施策	事業	位置づけ	重点	実施主体	
						行政	民間
意識向上	安全・安心プロジェクト	自転車利用ルールの周知啓発	学校やプロスポーツチーム、民間企業等と連携した交通安全教室の開催	拡充	◎	○	○
			自転車安全利用のための街頭指導の実施	継続		○	○
		ヘルメット着用・自転車保険加入促進	自転車ヘルメットの着用の周知・啓発	継続		○	○
			自転車損害賠償責任保険等の周知・啓発	継続		○	○
	生活利用・健康プロジェクト	多様な自転車の利用促進	災害対応職員の参集手段としての自転車利用	新規		○	○
			多様な自転車の利用促進	新規		○	○
		自転車通勤の促進	企業等と連携した自転車通勤の促進	拡充	◎	○	○
		自転車を活用した市民の健康増進	健康ポイント事業等を活用した自転車による健康増進の促進	継続		○	
			プロスポーツチーム等と連携した介護予防教室の開催	継続		○	○

【「機会づくり」の施策・事業一覧】

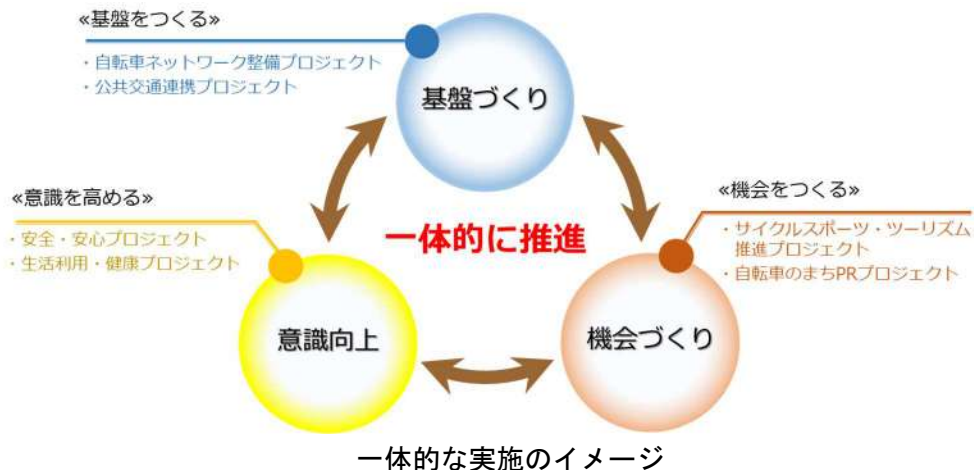
柱	基本施策	施策	事業	位置づけ	重点	実施主体		
						行政	民間	
機会づくり	サイクルスポーツ・ツーリズム推進プロジェクト	ジャパンカップサイクルロードレース等の開催	ジャパンカップサイクルロードレース等の開催	継続	◎	○	○	
			ジャパンカップを活用したサイクルスポーツの振興	ジャパンカップを活用したサイクルスポーツの振興	新規	◎	○	○
				森林公園におけるサイクルスポーツを楽しめる環境の整備	新規		○	○
		サイクルスポーツの活動環境の充実	新たなサイクルスポーツ（BMX、MTB等）の利用環境整備の検討・実施	新規		○	○	
			民間主体のサイクルイベント等の誘致・開催	拡充		○	○	
		サイクルツーリズムの推進	広域モデルルートの検討・設定	新規	◎	○	○	
			市内観光地等における自転車での周遊促進	新規	◎	○	○	
			自転車マップ等の作成・配布	継続		○		
		サイクリストへのサポート体制の充実	サイクリングルート沿線の休憩スポット（自転車の駅等）の充実	継続		○	○	
			サイクリストに対する支援策、支援体制の検討・実施	新規		○	○	
		宮サイクルステーションの充実	宮サイクルステーションの施策・事業の充実	拡充	◎	○	○	
		自転車のまちPRプロジェクト	「自転車のまち宇都宮」のPR	プロスポーツチームや多様なメディアを活用した情報発信	拡充	◎	○	○
	宮サイクルステーションの情報発信機能の強化			拡充		○	○	



8.3 取り組みの進め方

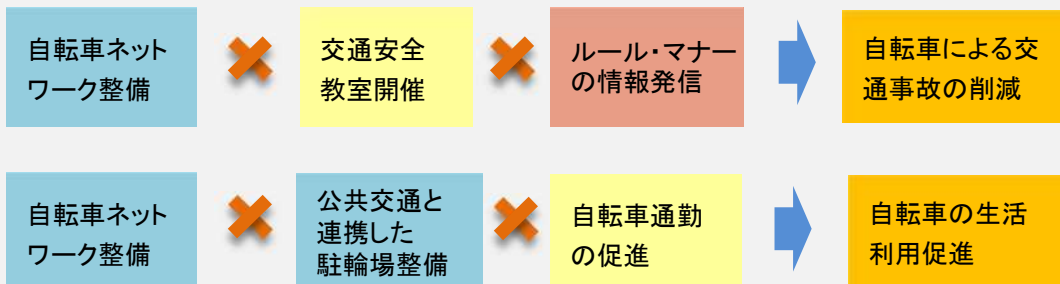
1) 一体的な事業推進のあり方

計画の推進にあたっては、「基盤づくり」「意識向上」「機会づくり」で掲げた各施策・事業を一体的・効果的に進めることで、通勤・通学・買い物など日常生活で自転車を活用する『自転車で「働く・学ぶ」「住まう」まち』の実現、サイクリングなどの余暇活動や健康づくりで自転車を活用する『自転車で「憩う・楽しむ」まち』の実現を目指します。



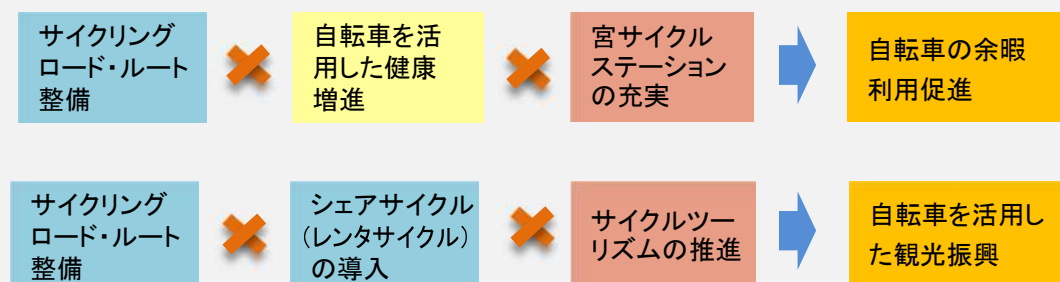
『自転車で「働く・学ぶ」「住まう」まち』の推進イメージ

「自転車交通事故の削減」や「日常生活での利用促進」のための一体的な取組イメージ



『自転車で「憩う」「楽しむ」まち』の推進イメージ

「自転車の余暇利用促進」や「自転車を活用した観光振興」のための一体的な取組イメージ



2)連携・協力のあり方

計画の推進にあたっては、「市民」・「民間事業者」・「行政」がそれぞれの役割を踏まえながら、官民連携によって「自転車のまち宇都宮」の推進を図ることが必要です。

行政においては、本市が県や国と連携し、地域の民間事業者等と協力しながら各種取組の持続的な推進を図り、目指すべき「自転車のまち宇都宮」の実現に向けた、適切なリードとフォローアップを行います。

民間においては、本市をはじめとした行政と連携しながら、民間活力などを活かして、利用者ニーズも踏まえた自転車利用者の安全性の確保や自転車の利用機会のさらなる拡大を促進します。

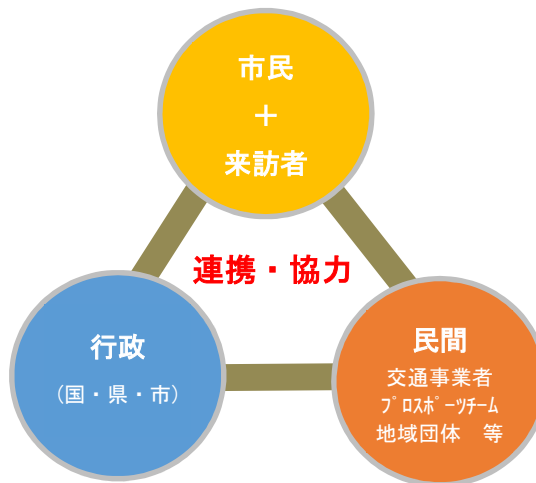
市民・来訪者においては、行政や民間が連携して行う各種取組に参加・協力をしながら、日常の移動や余暇活動において、自転車のさらなる利用を担います。

【市民の役割】

- ・自転車のルール遵守
- ・サイクルイベントへなどへの積極的な参加
- ・クルマと自転車・公共交通の適切な使い分け
- ・自転車を活用した健康づくり など

【行政の役割】

- ・安全・快適な自転車ネットワークの整備
- ・市民に対する情報発信・意識啓発
- ・民間事業者を活用した施策・事業の推進
- ・民間事業者に対する適切な支援 など



【民間事業者の役割】

- ・利用者ニーズを踏まえたサービス提供
- ・公共交通の利便性向上
- ・多様なサイクルイベントの開催
- ・行政の施策・事業との連携・協力 など

官民連携のイメージ



8.4 基盤づくりの取り組み

1) 自転車ネットワーク整備プロジェクト

① 自転車ネットワーク整備プロジェクトに基づく施策・事業

自転車ネットワーク整備プロジェクトに基づき推進する施策・事業は以下の通りです。

● 生活利用自転車ネットワーク整備

NCCにおける市民の日常生活の移動を支えるため、これまで整備を進めてきた自転車ネットワークを拡充し、自転車を安全・快適に利用できる走行環境を整備します。

具体的な事業 生活利用自転車ネットワーク路線の自転車走行空間整備【拡充】

重点

自転車が安全に走行できるよう、道路状況に合わせて「自転車専用通行帯」や「矢羽根型路面表示」などにより自転車が走行する位置を明示することで、交差点も含め自転車走行空間の連続性を確保するとともに自転車事故を抑制し安全性の高い自転車走行環境を創出します。

また、効果的・効率的に自転車ネットワークの整備が進められるよう、国・県の指針等を踏まえながら、矢羽根の大きさやデザイン、設置間隔の工夫など、より効果的な整備手法について検討を行います。

優先整備路線の選定や整備手法、整備スケジュール等については、本計画に基づき別途「自転車ネットワーク計画」を定めた上で生活利用自転車ネットワーク路線の整備を進めていきます。



市内の自転車走行空間（左：東武宇都宮駅付近 右：奥州街道）



●サイクリングロード・サイクリングルート整備

田川や姿川などのサイクリングロードの整備やルート案内などのサイン表示の設置により、広域的に連続した快適な自転車走行空間を確保するとともに、サイクルツーリズムの検討状況を踏まえながら観光資源や周辺市町を結ぶサイクリングルートの設定、サイン表示等の設置を進めることで、自転車を活用した広域的な周遊促進など多様な自転車利用を促進します。

具体的な事業 サイクリングロード・サイクリングルート路線の整備【拡充】**重点**

田川サイクリングロードや鬼怒川、姿川サイクリングロードの未整備箇所についても、河川管理者と連携しながら段階的に整備を進めます。また、サイクルツーリズムの検討状況を踏まえながら、市内や市外観光地を結ぶ広域的なサイクリングルートを設定します。それらの整備に合わせてサイクリングロード・サイクリングルートを安全で快適に走行できるよう、安全走行の注意喚起やルート案内などのサイン表示を設置します。

サイクリングロード・サイクリングルートの整備については、本計画に基づき別途「自転車ネットワーク計画」を定めた上で計画的に推進します。



田川サイクリングロード



山田川サイクリングロード



●自転車ネットワーク維持管理

安全・快適に自転車ネットワークを利用してもらえるよう、路面標示塗装の修繕など整備した自転車走行空間の維持管理や走行支障物件の撤去指導を行います。

具体的な事業① 既整備路線における自転車走行空間の維持管理【拡充】

整備済みの「自転車専用通行帯」や「矢羽型路面表示」の塗装剥離の修繕など、継続的に安全な走行空間が確保できるよう適切な維持管理に努めます。



老朽化により視認性が悪化した矢羽根



ガイドラインに示される整備手法と
不整合の路線

具体的な事業② 走行支障物件の撤去指導【拡充】

自転車の安全円滑な走行空間を確保するため、自転車走行空間の整備に合わせて、沿線住民や店舗に対してのチラシ配布などにより走行支障物件の撤去指導を図るとともに、歩道の切り下げ工事や無電柱化事業など関連する事業と連携を図ります。



自転車の走行支障物件例



無電柱化の実施例



②目標指標

自転車ネットワーク整備プロジェクトの目標指標は以下の通りです。

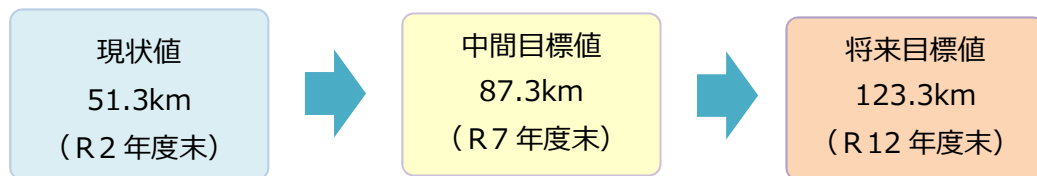
【活動指標】 自転車ネットワーク計画に基づく自転車走行空間の整備延長(総延長)

○ 指標説明

自転車ネットワーク計画に基づく自転車走行空間の整備延長(総延長)

○ 将来目標

自転車ネットワーク計画に基づく自転車走行空間の整備推進により、現状の 51.3km から将来(令和 12 年度末) 123.3km まで延伸することを目指します〔中間目標値(令和 7 年度末)は 87.3km〕。



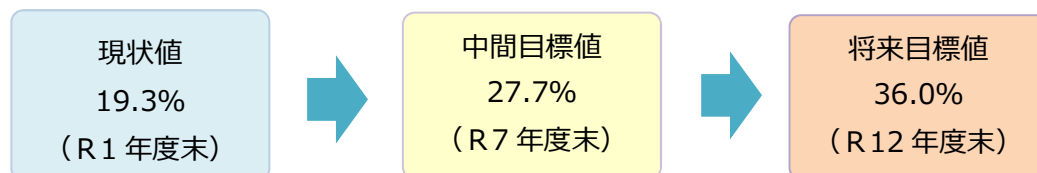
【成果指標】 自転車走行空間整備の満足度

○ 指標説明

本市の市民を対象とした自転車に関する市民意識調査における、「自転車走行空間が十分に整備されているか」の設問に対し、「とてもそう思う」・「少しそう思う」と回答した割合

○ 将来目標

生活利用自転車ネットワーク路線の自転車走行空間整備及びサイクリングロード・サイクリングルートの整備、自転車ネットワークの維持管理の推進により、市民の自転車走行空間整備に対する満足度が、現状の 19.3%から将来(令和 12 年度末) 36.0%まで増加することを目指します〔中間目標値(令和 7 年度末)は 27.7%〕。



2)公共交通連携プロジェクト

①公共交通連携プロジェクトの施策・事業

公共交通連携プロジェクトで推進する施策・事業は以下の通りです。

●鉄道駅周辺駐輪場の適切な管理運営・再整備

鉄道利用者の自転車への乗継ぎが促進されるよう、利用者ニーズを踏まえた鉄道駅周辺駐輪場の利便性向上と適切な管理運営に努めるとともに、駅周辺整備や需要変化に対応した駐輪場の再整備の検討を行います。

具体的な事業 鉄道駅周辺駐輪場の適切な管理運営及び再整備【拡充】

鉄道駅周辺駐輪場の利用者ニーズを踏まえた利便性向上を図るため、指定管理者と連携しながら市営駐輪場の適切な管理運営に努めるとともに、駅周辺整備に合わせた駐輪場の再整備や鉄道駅にアクセスする道路整備等に伴う駅利用者の需要変化に対応した駐輪場の拡張、施設の老朽化に対応した再整備等の検討を行います。



市営 JR 宇都宮駅東口第2 駐輪場



●LRT 停留場付近の駐輪場整備

東西基幹公共交通として整備を進めている LRT の停留場付近に駐輪場を整備するとともに、将来的な LRT への自転車積載について検討するなど、自転車と LRT の利用促進を図り、過度な車依存からの転換を促進します。

具体的な事業 LRT 沿線トランジットセンター、停留場付近への駐輪場整備【拡充】

重点

自転車と LRT との乗り換えが円滑にできるよう、需要や駐輪場スペースの確保状況を踏まえながら、LRT の運行開始を目途にトランジットセンターや停留場付近に駐輪場を整備するとともに、将来的な LRT への自転車積載について検討を行います。

また、LRT の JR 宇都宮駅西側への延伸の検討状況に合わせて、中心市街地の既存の駐輪場も含めて駅西側の駐輪場整備について検討を行います。



出典：LRT 公式 HP「MOVE NEXT うつのみや」

LRT と他の交通手段との連携のイメージ



出典：LRT 公式 HP「MOVE NEXT うつのみや」

LRT の運行ルート



●バス停留所付近の駐輪場整備

主要なバス停留所付近に駐輪場を整備し、自転車と路線バスとの乗り換え利便性を向上させることで、自転車とバスの利用促進を図り、過度な車依存からの転換や環境負荷の低減、市民の健康増進を促進します。

具体的な事業 主要なバス停留所付近への駐輪場整備【拡充】

重点

バス路線再編の進捗状況を見据えながら、NCCにおける地域拠点や人口が集積する幹線バス路線沿線など、主要なバス停留所付近に駐輪場を整備します。

整備にあたっては、令和元年度に実施した「公共交通との連携強化等に向けた駐輪場整備のあり方」に関する基礎調査結果等を参考に、沿線住民の利用ニーズ等の把握や、バス事業者、道路管理者、交通管理者等との協議を行いながら整備を進めます。



バス停留所付近の駐輪場（瑞穂野団地バス停）

●自転車放置防止対策

主に鉄道駅周辺や中心市街地を対象に定められている自転車放置禁止区域等において、自転車防止の啓発や指導、定期的な撤去を実施することで放置自転車の発生を抑制し、歩行者の安全な通行空間を確保するとともに、都市環境および景観の向上を図ります。

具体的な事業 鉄道駅周辺等の放置自転車対策【継続】

今後の駐輪場整備などに関連して、自転車放置禁止区域及び放置規制区域の指定について適宜見直しを検討するとともに、これまで実施してきた「放置防止指導」の継続的な実施や、定期的な撤去を実施することにより、駅やバス停周辺、中心市街地等の都市環境の向上を図ります。



● 中心市街地の駐輪環境整備

中心市街地での買い物等の際に発生する短時間駐輪などのニーズに対応するため、利用しやすい駐輪スポットを整備し、自転車を活用したまちなかの回遊性の向上を図ります。

具体的な事業① 駐輪スポットの整備【継続】

短時間無料駐輪場の整備や小規模分散型駐輪場の整備、民有地の空きスペース活用などにより、中心市街地での駐輪環境の向上を図ります。



中心市街地における短時間無料駐輪場



右写真出典：みんちゅう HP

駐輪場・駐車場シェアサービスを活用した
民地空きスペースでの駐輪場整備例（大和市）

具体的な事業② 民間事業者による適切な駐輪場の確保【継続】

放置自転車の発生状況等を踏まえながら、適宜、民間施設などの駐輪場の附置義務に関して、設置台数や対象施設の拡大などについて検討を行います。

● 駐輪場等への IC カード導入

自転車と公共交通との乗継利便性の向上を図るため、鉄道や L R T、路線バスで利用できる交通 IC カードの駐輪場やシェアサイクル（レンタサイクル）への導入を検討します。

具体的な事業 駐輪場やシェアサイクル（レンタサイクル）への IC カード導入

【新規】 **重点**

令和 3 年 3 月に「宇都宮市 IC カード導入検討協議会」が導入した交通 IC カード「totra」の駅周辺をはじめとした市営駐輪場やシェアサイクル（レンタサイクル）への導入について検討します。



交通 IC カード「totra」



●シェアサイクル（レンタサイクル）の充実

中心市街地や観光拠点における回遊性向上と観光振興，地域振興のため，中心市街地で実施しているレンタサイクルのシェアサイクル化の検討や大谷地域等の観光拠点におけるシェアサイクル（レンタサイクル）導入の検討を進めます。



出典：一般社団法人 日本シェアサイクル協会 パンフレット

シェアサイクルの実施事例



具体的な事業① レンタサイクルの適正な管理及びシェアサイクル化の検討・実施

【拡充】 重点

現在中心市街地でも実施しているレンタサイクルについて、利用者ニーズを踏まえた利便性向上を図るため、指定管理者と連携しながらレンタサイクルの適切な管理運営に努めるとともに、公共交通との連携強化やIoTの活用等によるシェアサイクル化について検討を行います。

具体的な事業② 観光拠点等へのシェアサイクル（レンタサイクル）導入検討・実施

【新規】 重点

本市の観光拠点である大谷地域や公共交通との交通結節点などシェアサイクルのニーズの高まりが見込まれる地域において、自転車を活用して観光スポット等を自由に周遊できるよう、民間事業者等と連携し、シェアサイクル（レンタサイクル）の導入について検討を行います。

検討にあたっては、大谷地域観光交通社会実験等を踏まえ、IoTの活用や公共交通との連携による「MaaS」におけるフィーダー交通としての自転車の役割や地域周遊を促進する仕組みづくり（サイクルツーリズム等）についても検討を行います。

大谷地域 観光交通社会実験

大谷地域観光交通社会実験

2020年 10/31(土) - 11/6(金) 運行時間：10:00～16:30
利用後アンケートにご協力ください。

人と地球にやさしいグリーンスローモビリティ!

CV8 大谷乗合・大谷貸料用車 (ピットレーン/バイク)
*貸料用車 大谷貸料用車、大谷貸料用車 (貸料用車)

ハイカー イチゴを乗べる (バイク/レンタカー)
*貸料用車 大谷貸料用車、大谷貸料用車 (貸料用車)

ちょっと速くに足を運ばしてみよう!

レンタサイクル カナホン探石車、大谷いちご車など、大谷貸料用車 (大谷貸料用車)

駐車場情報の提供

下のQRコードをスマホで読み取ると、大谷地区周辺の駐車場の空き状況を把握できます。空きのある駐車場をご利用いただき、去来緩和にご協力ください。

駐車場 空き情報

新感覚! 未来の乗物体験!?

RODEM (ロデム) **NENA (ニーナ)**

*貸料用車 大谷貸料用車、大谷貸料用車 (大谷貸料用車)

宇宙空間をくぐるバス

宇宙空間、未来のクルマ体験。無料で行けちゃうかも! (大谷貸料用車)

*貸料用車 大谷貸料用車、大谷貸料用車 (大谷貸料用車)

MaaSアプリで観光がもっと簡単・便利に (10/31 - 1/31)

MaaSアプリ (Japan Travel Guide + CONNECT) を利用すればもっと簡単・便利に観光が楽しめます。アプリのインストールは無料です。

アプリの主な機能

- 公共交通機関の経路検索
- 交通チケットの購入・利用
- 旅行商品の購入
- 「大谷A相乗り観光タクシー」の予約

アプリのダウンロード

- 協力事業者の無料Wi-Fiへの接続
- [接続先]
- 観光案内所 (R字観光案内所)
- 観光案内所 (R字観光案内所)
- 観光案内所 (R字観光案内所)
- 観光案内所 (R字観光案内所)
- 観光案内所 (R字観光案内所)

主催：宇都宮市 大谷観光部 ☎028(6)3212437 / スマートシティ推進室 ☎028(6)321514

大谷地域 観光交通社会実験

大谷地域観光交通社会実験

駐車場案内図

拡大図

詳しくは、ホームページでチェック!
おすすめ観光スポット・ショッピング、おいしいもの、楽しい体験などの情報が盛りだくさん!

大谷商工観光協会の QRコード

<https://www.oya-kankou.com/>

大谷地域ポータルサイトの QRコード

<https://oya-official.jp/>

主催：宇都宮市 大谷観光部 ☎028(6)3212437 / スマートシティ推進室 ☎028(6)321514

大谷地域観光交通社会実験パンフレット



②目標指標

公共交通連携プロジェクトの目標指標は以下の通りです。

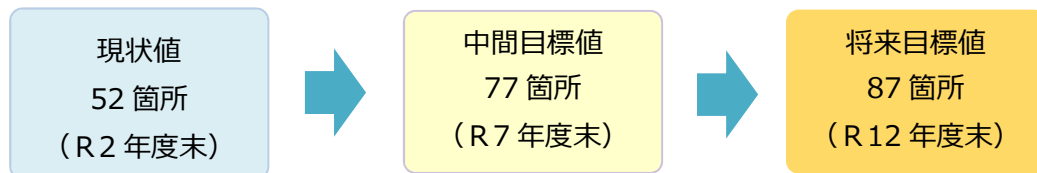
【活動指標】 交通結節点の駐輪場整備箇所数

○ 指標説明

鉄道駅周辺及び L R T のトランジットセンター・停留場付近、主要バス停付近における駐輪場の整備箇所数

○ 将来目標

LRT 停留場付近の駐輪場整備や、主要バス停付近の駐輪場整備の推進により、交通結節点の駐輪場整備箇所数を現状の 52 箇所から将来（令和 12 年度末）87 箇所まで増加させることを目指します [中間目標値（令和 7 年度末）は 77 箇所]。

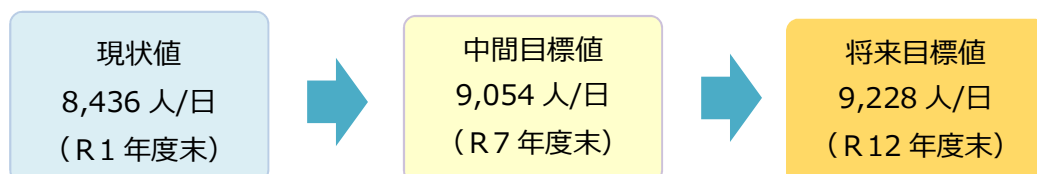

【成果指標】 市内駐輪場の利用者数

○ 指標説明

市営駐輪場（駅周辺・中心市街地）、L R T 停留場付近駐輪場（トランジットセンター含む）、主要バス停付近駐輪場の 1 日あたりの利用者数（※無人の駐輪場については定期的に利用状況を調査）

○ 将来目標

鉄道駅周辺駐輪場の利便性向上や L R T 停留場付近の駐輪場整備、主要バス停付近の駐輪場整備等により、自転車と公共交通との連携強化を図ることで、市内駐輪場の 1 日あたりの利用者を、現状の 8,436 人から将来（令和 12 年度末）9,228 人まで増加させることを目指します [中間目標値（令和 7 年度末）は 9,054 人]。



8.5 意識向上の取り組み

1)安全・安心プロジェクト

①安全・安心プロジェクトの施策・事業

安全・安心プロジェクトで推進する施策・事業は以下の通りです。

●自転車利用ルールの周知啓発

基本的な交通ルールや自転車の正しい乗り方などを学んでもらうため、子どもから高齢者まで幅広い世代に対応した交通安全教室等を実施します。

また、地域や高校、警察等と連携しながら、自転車利用者に直接安全利用を呼びかける街頭指導を行います。

具体的な事業① 学校やプロスポーツチーム、民間企業等と連携した交通安全教室の開催

【拡充】 **重点**

小・中・高校生を対象に、基本的な交通ルールや自転車の正しい乗り方などを学んでもらうため、「子ども自転車免許事業」や交通事故をスタントマンが再現する「スケアード・ストレイト方式を活用した交通安全教室」等を開催するとともに、新たに VR 等を活用した効果的な交通安全教室を実施します。

また高齢者を対象として、警察と連携した自転車教室や自転車シミュレーターを活用した教室・イベント等を実施します。

車のドライバーに対しては、自転車走行空間への認知・理解を高めるため、啓発チラシを配布するとともに、自動車教習所における自転車走行空間の設置区間の導入を検討します。



スケアード・ストレイト方式交通安全教室



シミュレーターを活用した自転車教室



具体的な事業② 自転車安全利用のための街頭指導の実施【継続】

自転車通行量の多い交差点や自転車走行空間の整備を行った路線等において、地域や高校、警察等と連携しながら、自転車利用者に直接安全利用を呼びかける街頭指導を行い、自転車利用者の交通ルール遵守を図ります。



ユニオン通りにおける街頭指導

●ヘルメット着用・自転車保険加入促進

ヘルメットの着用は交通事故の被害軽減やドライバーからの視認性向上に有効であるため、ヘルメット着用の重要性について、小・中・高校生と保護者に対するチラシ配布などにより継続的に周知・啓発を行うとともに、店舗と連携したヘルメット着用者への特典サービスの提供事業などを実施し、ヘルメットの着用・普及を促進します。

また、万が一の事故における被害者救済のため、小・中・高校生と保護者を対象に、保険加入の重要性を周知する啓発チラシの配布等を行い、自転車保険の加入を促進します。

具体的な事業① 自転車ヘルメット着用の周知・啓発【継続】

ヘルメット着用を促進するため、広報紙での啓発、交通安全教室などにおける小・中・高校生と保護者へのチラシ配布、自らモデルとなって自転車利用時に積極的にヘルメットを着用し、その有用性について市民に周知する「自転車ヘルメット利用推進員」の任命などに取り組みます。

また、ヘルメット着用率を高めるため、自転車ヘルメットを着用している自転車利用者に対し、商品の割引など独自のサービスを提供する店舗等を「自転車安全利用応援店」として認定します。



自転車ヘルメット利用推進員証

具体的な事業② 自転車損害賠償責任保険等の周知・啓発【継続】

学校や自転車販売店、保険事業者などと連携し、自転車保険加入の重要性について周知する啓発チラシを作成し、小・中・高校生と保護者等に配布します。



②目標指標

安全・安心プロジェクトの目標指標は以下の通りです。

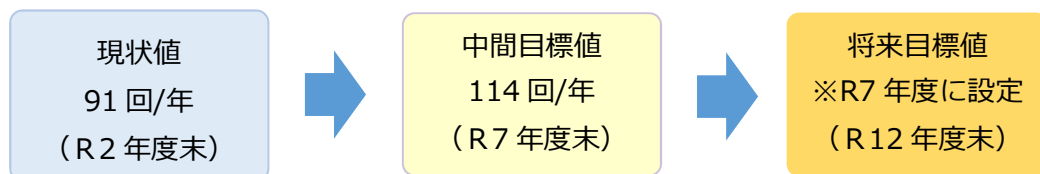
【活動指標】 小・中・高校生や高齢者を対象とした体験型自転車安全利用教室の開催回数

○ 指標説明

小・中・高校生や高齢者を対象とした体験型自転車安全利用教室の年間の開催回数

○ 将来目標

子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とした体験型自転車安全利用教室の年間の開催回数を、現状の91回から令和7年度に114回（中間目標値）に増加させることを目指します。将来目標値（令和12年度末）は令和7年度に設定します。

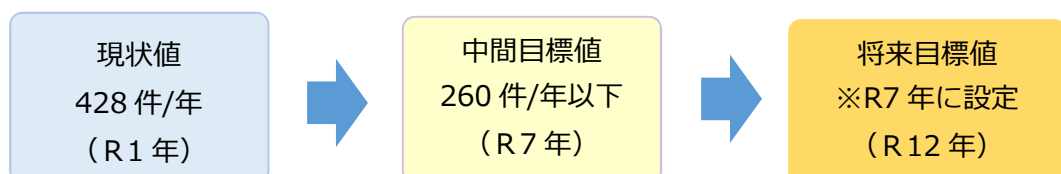

【成果指標】 自転車に関連する交通事故件数

○ 指標説明

宇都宮市内で発生した自転車に関連する年間の交通事故件数

○ 将来目標

自転車ネットワーク計画に基づく安全な自転車走行空間の整備と合わせて、自転車利用者に対する自転車利用ルールの周知啓発やヘルメット着用・自転車保険加入促進に取り組むことで、安全な自転車利用を促進し、市内で発生する自転車に関連する年間の交通事故件数を、現状の428件から令和7年に260件以下（中間目標値）に減少させることを目指します。将来目標値（令和12年）は令和7年度に設定します。



2)生活利用・健康プロジェクト

①生活利用・健康プロジェクトの施策・事業

生活利用・健康プロジェクトで推進する施策・事業は以下の通りです。

●災害時における自転車活用

災害時における職員の参集手段としての自転車活用について周知を図ります。

具体的な事業 災害対応職員の参集手段としての自転車利用【新規】

「宇都宮市地域防災計画」において、被災により交通が途絶した場合の自転車等による職員の参集を位置づけるとともに、職員に対して日頃から経路等の確認を行うよう、研修等を活用して周知します。

●多様な自転車の利用促進

道路交通法の一部改正により、栃木県の一般公道での走行が可能となったタンデム自転車（2人乗り自転車）をはじめとした、多様な自転車の利用を促進します。

具体的な事業 多様な自転車の利用促進【新規】

視覚障がい者の外出機会の増加にもつなげるタンデム自転車や子供乗せ自転車など、多様な自転車が利用しやすい環境を創出するため、レンタサイクルでのタンデム自転車の配置やサイクルイベント等での触れる機会の提供を図ります。

また、障がい者用の自転車開発など、多様な自転車の普及・利用促進のための民間事業者等の取り組みに対する支援について検討を行います。



●自転車通勤の促進

自転車通勤を推進することは、環境負荷の低減・交通渋滞の緩和、市民の健康維持増進につながることから、市民への自転車通勤の周知・啓発や、企業等と連携した自転車通勤の促進により、クルマ通勤から自転車通勤への転換を促進します。

具体的な事業 企業等と連携した自転車通勤の促進【拡充】

重点

自転車通勤の促進に向けて、自転車の環境負荷低減や健康増進、渋滞緩和などの効果について周知・啓発を行うとともに、国が実施する『「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクト』の活用など、企業が主体的に自転車通勤に取り組む方策を検討し、企業等と連携した自転車通勤の促進を図ります。



自転車通勤パンフレット



自転車通勤出前講座

「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクト

国の自転車活用推進本部と自転車に関係する団体とで構成された「自転車活用推進官民連携協議会」において企業における自転車通勤の導入を支援しています。

「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクトは、自転車通勤を積極的に推進する事業者の取組を広く発信し、ひいては企業活動における自転車通勤や業務利用の拡大を図り、企業における自転車通勤の推進に関する自主的な取組を促進することを目的とした、自転車通勤を推進する企業・団体に対する認定制度です

宣言企業認定ロゴマーク



優良企業認定ロゴマーク



●自転車を活用した市民の健康増進

市民の健康意識の高まりを踏まえ、自転車利用による健康増進効果の市民への周知啓発や自転車での健康ポイント事業への参加、サイクリングなど自転車を楽しめる機会の情報発信を行い、自転車を活用した健康増進を促進します。

具体的な事業① 健康ポイント事業等を活用した自転車による健康増進の促進【継続】

自転車利用による健康増進効果を広くPRするとともに、自転車での健康ポイント事業への参加、サイクリングルート等の自転車を楽しみながら健康増進が図れるサイクルスポーツに関する情報発信を行い、自転車を活用した健康づくりを促進します。

うつのみや健康ポイント

本市では、運動や健診の受診など、健康づくりに取り組むことでポイントが貯まり、貯まったポイントに応じてサービスや特典が受けられる「うつのみや健康ポイント」を実施しています。

「歩く」「自転車に乗る」といった運動や、「体重の計測」「健診の受診」の自己管理、健康づくり活動の成果としての「体重の適正化（BMIの改善または基準値の維持）」といった活動にポイントが付与します。



出典：うつのみや健康ポイントHP

具体的な事業② プロスポーツチーム等と連携した介護予防教室の開催【継続】

宇都宮ブリッツェンと連携し、65歳以上の方を対象とした『いきいき健康自転車教室（「自転車」で楽しく運動する介護予防事業）』を開催します。



出典：宇都宮ブリッツェン



②目標指標

生活利用・健康プロジェクトの目標指標は以下の通りです。

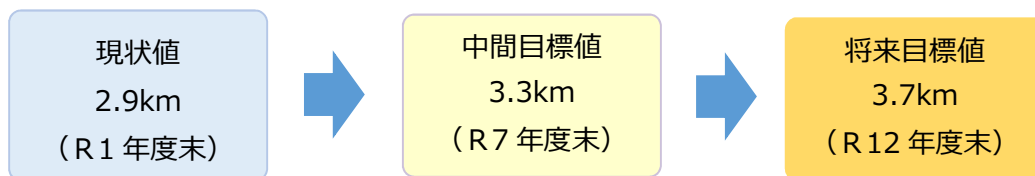
【活動指標】 健康ポイント事業登録者における自転車の1日あたり平均走行距離

○ 指標説明

市が実施する健康ポイント事業の登録者が、自転車で1日に走行する平均距離

○ 将来目標

自転車通勤の促進や自転車を活用した市民の健康増進の促進を図ることで、健康ポイント事業の登録者の自転車走行距離の平均を、現状の2.9kmから将来（令和12年度末）3.7kmまで増加させることを目指します〔中間目標値（令和7年度末）は3.3km〕。

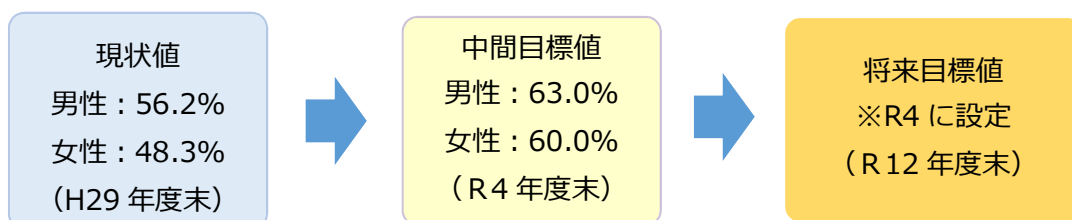

【成果指標】 健康のために意識して身体を動かす成人の割合

○ 指標説明

市が実施する市民健康等意識調査において「健康のために意識して身体を動かすようにしている・どちらかといえばしている」と回答した成人男性及び成人女性の割合

○ 将来目標

自転車通勤やサイクリングスポーツなど自転車を活用した健康増進意識の向上を図ることで、健康のために意識して身体を動かす成人の割合を、現状の男性56.2%・女性48.3%から令和4年度に男性63.0%・女性60.0%（中間目標値）に増加させることを目指します。将来目標値（令和12年度末）は令和4年度に設定します。



8.6 機会づくりの取り組み

1) サイクルスポーツ・ツーリズム推進プロジェクト

① サイクルスポーツ・ツーリズム推進プロジェクトの施策・事業

サイクルスポーツ・ツーリズム推進プロジェクトで推進する施策・事業は以下の通りです。

● ジャパンカップサイクルロードレース等の開催

アジア最高位のワンデイロードレース「ジャパンカップサイクルロードレース」や、大通りを疾走する「ジャパンカップクリテリウム」の更なる魅力向上を図ります。

具体的な事業 ジャパンカップサイクルロードレース等の開催【継続】

重点

「自転車のまち宇都宮」のブランド力の更なる向上に向け、世界最高峰のワールドツアーに次ぐカテゴリーである「UCI プロシリーズ」に日本で唯一認定されている「ジャパンカップサイクルロードレース」について、世界トップレベルのチーム・選手の招聘や観戦環境の充実、幅広い世代が楽しめる多彩なサイクルイベントの実施など、更なる魅力向上を図ります。

また、JR 宇都宮駅西側 LRT 導入後においても、引き続き「ジャパンカップクリテリウム」が開催できるよう、レース関係者や関係機関と協議を行います。



ジャパンカップサイクルロードレース



●ジャパンカップを活用したサイクルスポーツの振興

「宇都宮シクロクロス」など様々な自転車レースを開催するとともに、ジャパンカップ開催地である森林公園において年間を通じたジャパンカップコースの活用方を検討するなど、市民がサイクルスポーツに親しめる環境を整備することにより、更なるサイクルスポーツの振興を図ります。

具体的な事業① ジャパンカップを活用したサイクルスポーツの振興【新規】

重点

オフロードの自転車レースである「宇都宮シクロクロス」の継続的な開催や、オンラインでジャパンカップコースを体感できる環境整備等により、市民が身近にサイクルスポーツに親しめる機会を増やします。



宇都宮シクロクロス

具体的な事業② 森林公園におけるサイクルスポーツを楽しむ環境の整備【新規】

ジャパンカップのメイン会場である森林公園において、年間を通じたジャパンカップコースの活用やコースの安全な走行環境の維持、マウンテンバイクコースの整備など、サイクルスポーツを楽しむ環境の整備について検討します。



●サイクルスポーツの活動環境の充実

サイクルスポーツの振興のため、利用ニーズや地域特性等を踏まえながら、BMXやMTBなど幅広いサイクルスポーツの活動環境の充実について検討するとともに、民間主体のサイクルレース・サイクルイベント等の誘致・開催を行います。

具体的な事業① 新たなサイクルスポーツ（BMX、MTB等）の利用環境整備の検討・実施【新規】
 新たな都市公園等の整備に合わせて、BMXなど都市型スポーツを基本とした、多様なスポーツ関連施設の導入について検討します。

具体的な事業② 民間主体のサイクルイベント等の誘致・開催【拡充】

宇都宮ブリッツェンと連携しながら、自転車の楽しさを伝えるサイクルイベント等の誘致・開催を行います。

また、宇都宮競輪場をホームバンクとする競輪選手と連携し、競輪場の認知度の向上や自転車の楽しさを伝えるサイクルイベントを開催します。



うつのみやサイクルピクニック



●サイクルツーリズムの推進

自転車を活用した観光振興や地域振興、広域的な周遊促進を図るため、栃木県や周辺市町、宇都宮ブリッツェン等と連携し、サイクルツーリズムを推進します。

具体的な事業① 広域モデルルートへの検討・設定【新規】 **重点**

栃木県や周辺市町、宇都宮ブリッツェン等と連携を図りながら、走行環境や受け入れ環境の検討を進め、魅力的なサイクリング環境(モデルルート)の創出を図ります。



出典：栃木県北サイクルツーリズム推進協議会 HP

サイクルツーリズムのイメージ

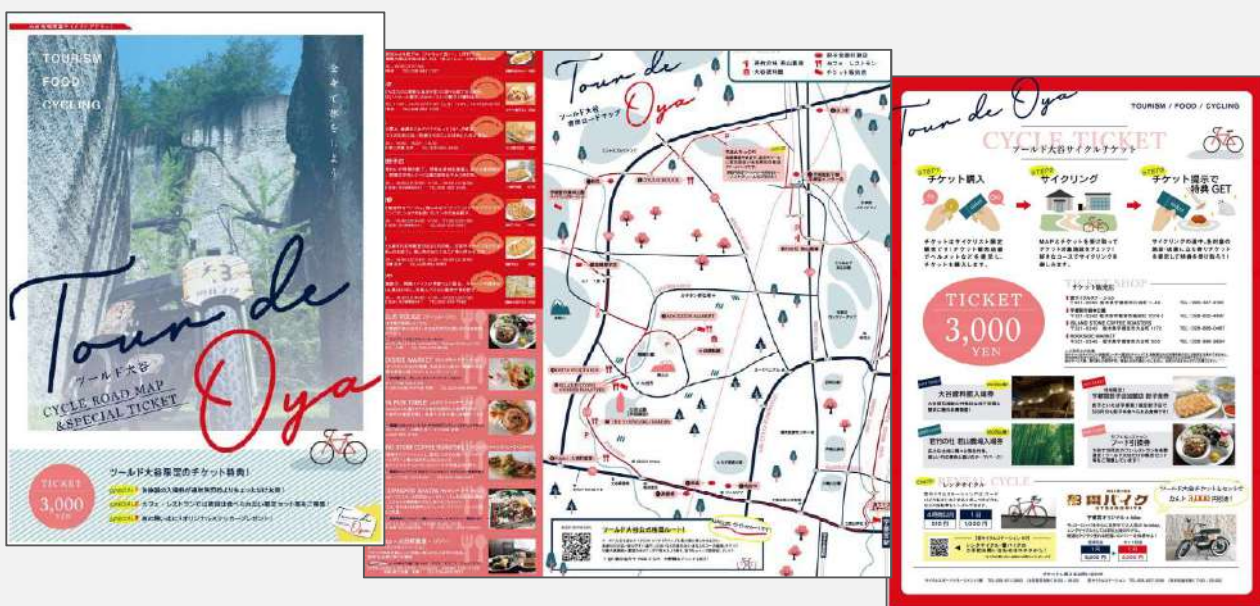
具体的な事業② 市内観光地等における自転車での周遊促進【新規】 **重点**

宇都宮ブリッツェンや地域等と連携を図り、その地域の魅力を自転車で楽しみながら観光できる地域周遊ルート等の検討支援を行います。

また、大谷地域等において観光客等が気軽に自転車で周遊できるよう、民間事業者と連携した共通チケットの充実やガイドツアーの検討など周遊促進の取り組みを進めます。

ツールド大谷

「ツールド大谷」は、宇都宮ブリッツェンを運営するサイクルスポーツマネジメントがサイクリストを対象に販売しているサイクル周遊チケットです。



出典：宮サイクルステーション HP



具体的な事業③ 自転車マップ等の作成・配布【継続】

主要な観光資源を巡るサイクリングルートに掲載した自転車マップなどを作成し、宮サイクルステーションやサイクリングイベント等で配布します。

宇都宮自転車マップ



宇都宮広域自転車マップ



●サイクリストへのサポート体制の充実

自転車利用者の休憩スポットである自転車の駅については、サイクリストが気軽に立ち寄れるようサイクリングルート沿線のコンビニエンスストアや飲食店などへの設置を進めます。また、自転車の駅の認知度向上と利用促進を図るため、自転車の駅のPRの強化にも取り組みます。

具体的な事業① サイクリングルート沿線の休憩スポット（自転車の駅等）の充実【継続】

サイクリングルート沿線等への自転車の駅の設置を継続して行います。また、施設の認知度向上と利用促進に向け、サイクリストへの効果的な周知方法を検討しPRの強化を図ります。



自転車の駅の表示



自転車の駅の設置例

具体的な事業② サイクリストに対する支援策、支援体制の検討・実施【新規】

民間事業者等と連携し、自転車の出張修理サービスや自転車搬送サービスなどサイクリストに対する支援策や支援体制の検討を行います。



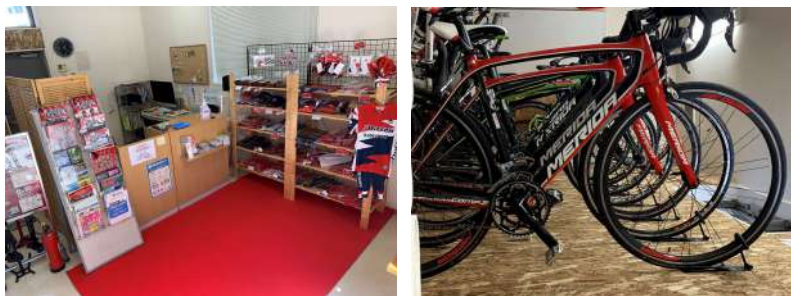
●宮サイクルステーションの充実

本市における自転車利用の拠点施設として、これまで実施してきたスポーツバイクのレンタルやスポーツバイクセミナーなどの取り組みを継続するとともに、「自転車のまち宇都宮」のシンボルとしての情報発信機能の強化や利用者ニーズを踏まえたサービス拡充について検討を行います。

具体的な事業 宮サイクルステーションの施策・事業の充実【拡充】

重点

宮サイクルステーションについて、「自転車のまち」の拠点として利用拡大が図れるよう、指定管理者と連携を図りながら、情報発信機能やスポーツバイクレンタル機能の強化など、利用者ニーズに応じた施策・事業の充実や施設規模等について検討を行います。



宮サイクルステーション



②目標指標

サイクルスポーツ・ツーリズム推進プロジェクトの目標指標は以下の通りです。

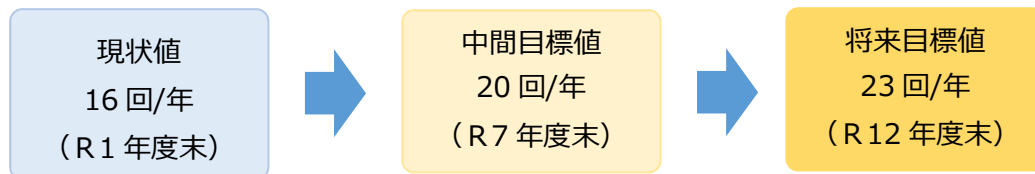
【活動指標】 自転車競技・サイクルイベントの開催数

○ 指標説明

本市で開催される自転車競技やサイクルイベントの年間の開催数

○ 将来目標

ジャパンカップ、クリテリウムをはじめ、シクロクロスなど様々な自転車レースの開催やサイクルスポーツの活動環境の充実により、自転車競技・サイクルイベントの年間の開催回数を、現状の16回から将来（令和12年度末）23回に増加させることを目指します〔中間目標値（令和7年度末）は20回〕。



※「ツール・ド・とちぎ」や「ブルベ」等の令和元年度で終了したイベントの回数は除く

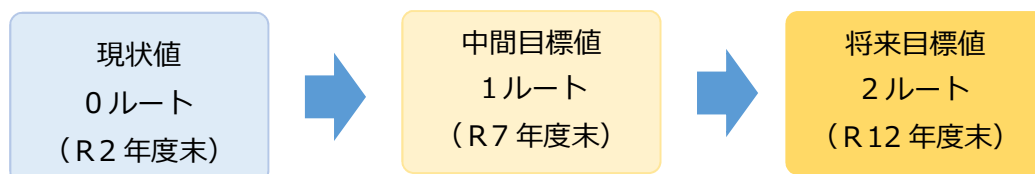
【活動指標】 サイクルツーリズムにおける広域モデルルートの設定数

○ 指標説明

本市が発着地点となっているサイクルツーリズムの広域モデルルートの設定数

○ 将来目標

市内観光地等における周遊促進や県・周辺市町等と連携した広域モデルルートの検討を進めることにより、サイクルツーリズムの広域モデルルートの設定数を、現状の0ルートから将来（令和12年度末）2ルートに増加させることを目指します〔中間目標値（令和7年度末）は1ルート〕。



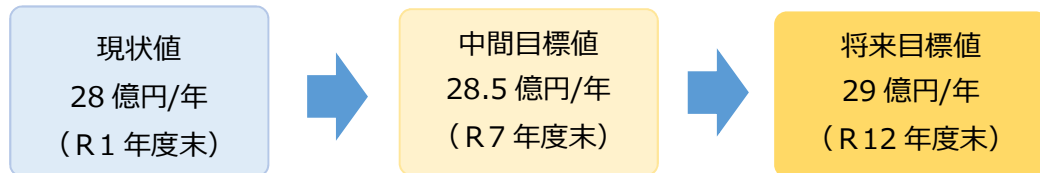
【成果指標】 自転車競技・サイクルイベントによる経済波及効果(ジャパンカップ)

○ 指標説明

ジャパンカップ開催による経済波及効果(観戦者数, 観戦者へのアンケート調査から算出した1人あたりの平均消費額などをもとに産業連関表を用いて試算した額)

○ 将来目標

世界トップレベルのチーム・選手の招聘や観戦環境の充実, 幅広い世代が楽しめる多彩なサイクルイベントの実施など, 更なる魅力向上を図り, ジャパンカップ開催による年間の経済波及効果を, 現状の28億円から将来(令和12年度末)29億円に増加させることを目指します[中間目標値(令和7年度末)は28.5億円]。



2)自転車のまち PR プロジェクト

①自転車のまち PR プロジェクトの施策・事業

自転車のまち PR プロジェクトで推進する施策・事業は以下の通りです。

● 「自転車のまち宇都宮」の PR

「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上や自転車に関する取り組みの認知度向上を図るため、多様なメディアを活用した情報発信や宮サイクルステーションの情報発信機能の強化により、市内外への「自転車のまち」の積極的な PR を行います。

具体的な事業① プロスポーツチームや多様なメディア等を活用した情報発信【拡充】 重点

ジャパンカップや宇都宮ブリッツェンなど「自転車のまち宇都宮」を代表するイベントやプロスポーツチームの活動に合わせて、TV・ラジオ・SNS など多様なメディアを活用した市内外への情報発信を行い、「自転車のまち」としてのブランド力の向上や自転車に関する取り組みの認知度向上を図ります。



市 HP を活用した情報発信



ジャパンカップサイクルロードレース HP を活用した情報発信

具体的な事業② 宮サイクルステーションの情報発信機能の強化【拡充】 重点

宮サイクルステーションへのデジタルサイネージの設置を検討するなど、「自転車のまち」の拠点施設としての宮サイクルステーションの市内外への情報発信機能の強化を図ります。



②目標指標

安全・安心プロジェクトの目標指標は以下の通りです。

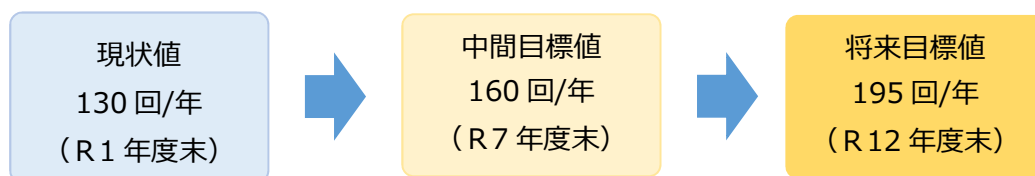
【活動指標】 自転車に関するパブリシティ等の情報掲載件数

○ 指標説明

本市によるプレスリリースなど、メディアに報道として自転車に関する内容を取り上げられたパブリシティ等の情報掲載件数

○ 将来目標

ジャパンカップ等のイベントをはじめ本計画に基づく多様な施策・事業に関する情報発信を行うことにより、自転車に関するパブリシティパブリシティ等の情報掲載件数を、現状の130件から将来（令和12年度末）195件に増加させることを目指します〔中間目標値（令和7年度末）は160件〕。



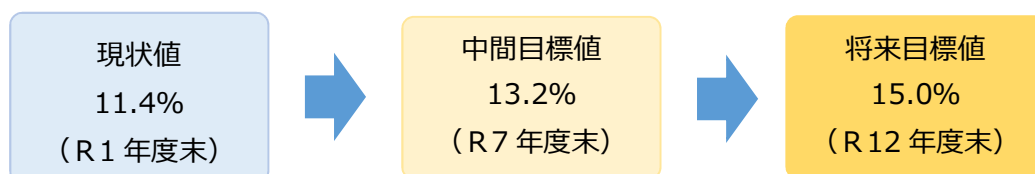
【成果指標】 「自転車のまち」の認知度

○ 指標説明

観光動態調査において取得されている、市外の方が本市を自転車のまちとして認知している割合

○ 将来目標

多様なメディアを活用した情報発信や宮サイクルステーションの情報発信機能の強化により、「自転車のまち」としての認知度を、現状の11.4%から将来（令和12年度末）15.0%に増加させることを目指します〔中間目標値（令和7年度末）は13.2%〕。

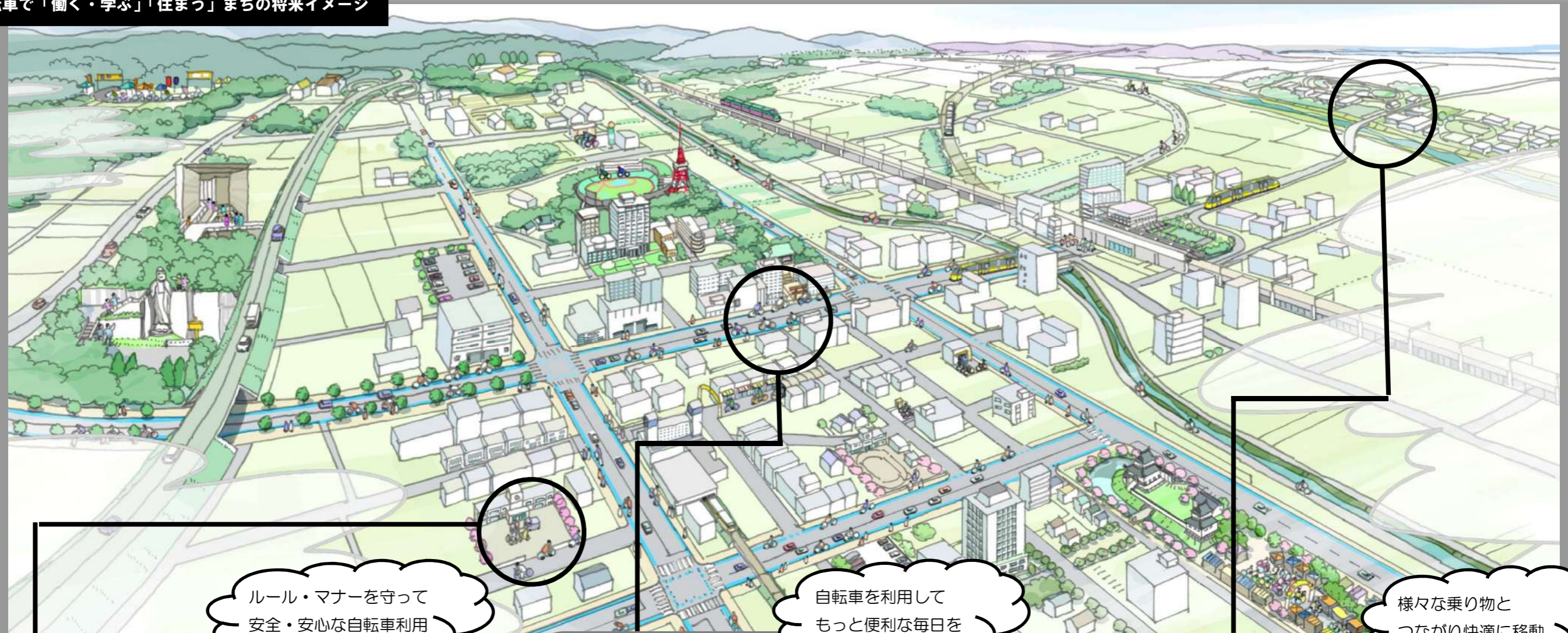


8.7 将来イメージ

通勤・通学・買い物など日常生活で自転車を活用する『自転車で「働く・学ぶ」「住まう」まち』, サイクリングなどの余暇活動や健康づくりで自転車を活用する『自転車で「憩う・楽しむ」まち』が実現された, 「自転車のまち宇都宮」の将来的な実現イメージは次頁に示す通りです。



自転車で「働く・学ぶ」「住まう」まちの将来イメージ



ルール・マナーを守って
安全・安心な自転車利用

自転車を利用して
もっと便利な毎日を

様々な乗り物と
つながり快適に移動

通勤・通学のイメージ



- 都市拠点と地域拠点、産業拠点等をつなぐ自転車ネットワークや公共交通に接続する駐輪場が整備され、多くの人が通勤・通学で自転車を利用しています。
- 自転車利用のルール遵守やヘルメットの着用、自転車保険への加入が進み、安全・安心に自転車が利用されています。

都心部のイメージ



- 自転車走行空間や駐輪環境が整備され、多くの人が通勤・通学・買い物などで、自転車利用ルールを遵守しながら、安全・安心・快適に自転車を利用しています。
- 利便性の高いシェアサイクルが導入され、街なか観光や買い物、仕事で利用されています。

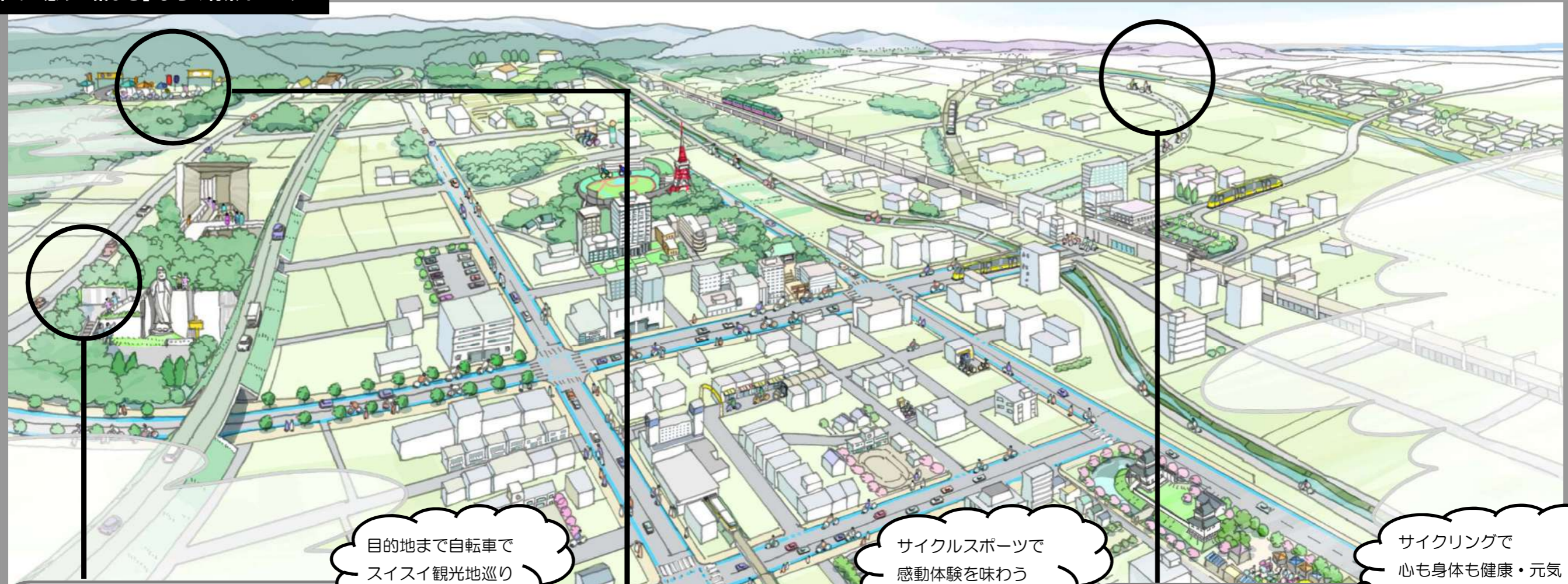
交通結節点のイメージ



- 公共交通にアクセスする自転車ネットワークや駐輪場が整備され、多くの人が自転車と公共交通を乗り継いで通勤・通学・買い物を行っています。
- 駐輪場の利用料金を交通ICカード利用が可能となり、自転車と鉄道・LRT・バスとの乗り継ぎがスムーズに行われています。



自転車で「憩う・楽しむ」まちの将来イメージ



目的地まで自転車で
スイスイ観光地巡り

サイクルスポーツで
感動体験を味わう

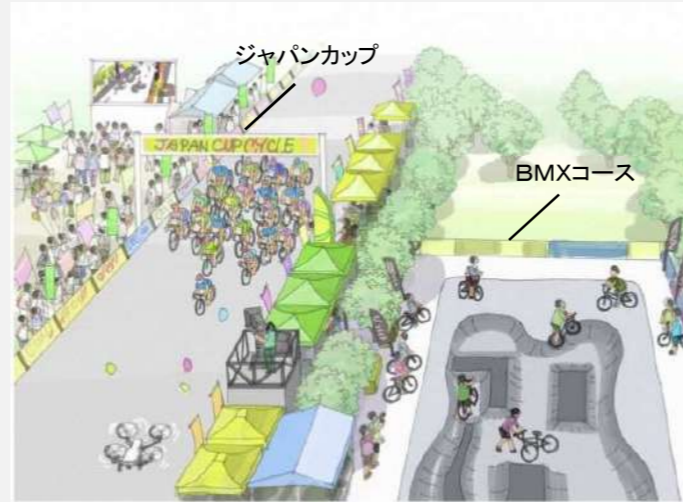
サイクリングで
心も身体も健康・元気

自転車観光（大谷地区）のイメージ



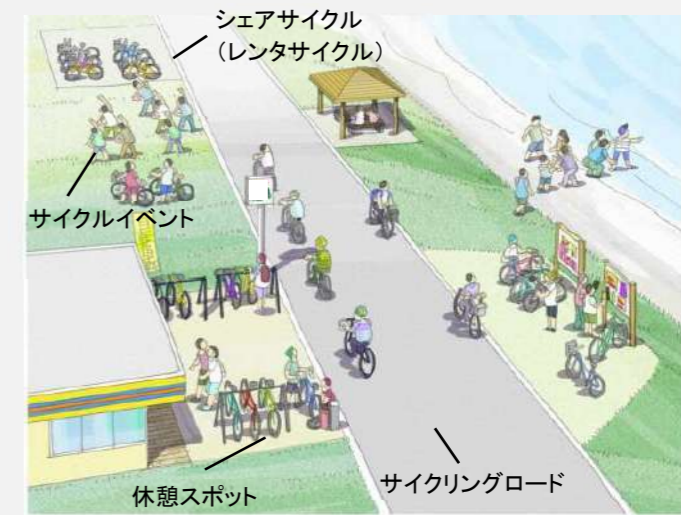
- シェアサイクル（レンタサイクル）
- サイクリングルート
- 観光拠点エリアの回遊や他の観光拠点を結ぶサイクリングルートが整備され、多くの方が自転車で観光周遊を楽しんでいます。
- 公共交通と連携したシェアサイクル（レンタサイクル）を活用して、徒歩では回れない周辺の観光スポットの魅力を楽しんでいます。

サイクルスポーツのイメージ



- ジャパンカップ
- BMXコース
- ジャパンカップサイクルロードレースやクリテリウム、シクロクロスなど様々なサイクルスポーツの大会が開催され、市内外から多くの方が観戦に訪れています。
- 広域的に周遊ができるサイクリングロード、サイクリングルートが整備され、市民はもとより市外から多くの方が訪れサイクルスポーツを楽しんでいます。

サイクリングロードのイメージ



- シェアサイクル（レンタサイクル）
- サイクリングロード
- 休憩スポット
- サイクルイベント
- 観光拠点を結ぶ広域的なサイクリングロード・サイクリングルートが整備され、多くの方がサイクリングやサイクルツーリズムを楽しんでいます。
- 宮サイクルステーションや休憩スポット（自転車の駅）を利用して、快適にサイクリングやサイクルツーリズムを楽しんでいます。



8.8 計画全体の目標指標

1)計画全体に係る指標の概要

本計画の目標指標として、8章で設定した活動指標・成果指標とは別に、計画全体に係る指標を設定しました。

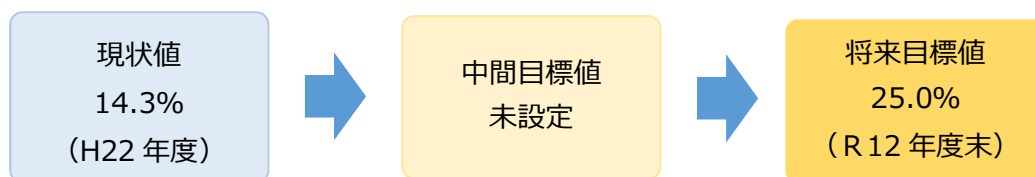
計画全体の施策・事業の推進に係る指標は以下の通りです。

【成果指標1】 自転車交通分担率(通勤・通学) [※国勢調査]

- 指標説明

本市居住者のうち、国勢調査（大規模調査）において、従業地又は通学地へ通勤・通学するために利用している交通手段を自転車と回答した割合
- 将来目標

自転車通勤など日常生活での自転車利用を促進することにより、通勤・通学の自転車交通分担率を、現状（平成22年度）の14.3%から将来（令和12年度末）25.0%に増加させることを目指します [中間目標値は設定なし]。

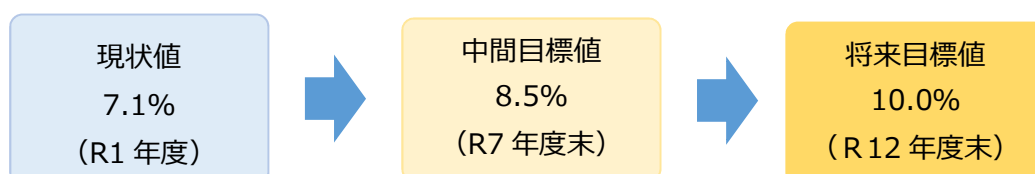


【成果指標2】 「自転車のまち」に興味があると回答した割合 [※観光動態調査]

- 指標説明

本市が実施する観光動態調査において「自転車のまち」に興味があると回答した割合
- 将来目標

ジャパンカップの魅力向上やサイクルスポーツの振興、サイクルツーリズムの推進、多様なメディアを活用した「自転車のまち宇都宮」の情報発信等により、「自転車のまち」に興味があると回答した割合を、現状の7.1%から将来（令和12年度末）10.0%に増加させることを目指します [中間目標値（令和7年度末）は8.5%]



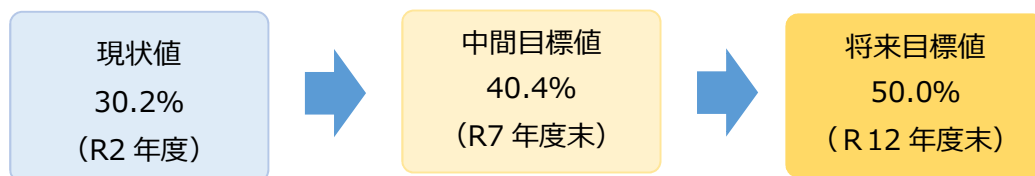
【成果指標3】 「自転車利用環境の充実」に対する市民満足度 【※市民意識調査】

○ 指標説明

本市の市政世論調査において、「自転車利用環境の充実」の設問に対し「満足」又は「ほぼ満足」と回答した割合

○ 将来目標

自転車ネットワーク整備や公共交通との連携強化、交通ルール・マナー向上等による安全・安心・快適な自転車の利用環境整備、通勤・通学や健康づくり、サイクルスポーツ・サイクルツーリズム等の日常生活や楽しむための自転車の利用促進、自転車に関する市民への情報発信を進めることにより、「自転車利用環境の充実」に対する市民満足度を、現状 30.2%から将来（令和 12 年度末）50.0%に増加させることを目指します〔中間目標値（令和 7 年度末）は 40.4%〕



2)目標指標のまとめ

本計画で設定した目標指標を以下の通り整理しました。

計画全体の指標				
【成果指標】 自転車交通分担率(通勤・通学) : 25.0%[R12] (14.3%[H22]) [中間目標(R7) -] ※国勢調査にて把握				
【成果指標】 「自転車のまち」に興味があると回答した割合 : 10.0%[R12] (7.1%[R1]) [中間目標(R7) 8.5%] ※観光動態調査にて把握				
【成果指標】 「自転車利用環境の充実」に対する市民満足度:50.0%[R12] (30.8%[R2]) [中間目標(R7) 40.4%] ※市政世論調査にて把握				
基本施策	目標及び目標指標	現状	中間目標	将来目標
自転車ネットワーク整備プロジェクト	〔目標〕 自転車で安全・快適に移動できる走行環境を整備する			
	【活動指標】 自転車ネットワーク計画に基づく自転車走行空間の整備延長	51.3km(R2)	87.3km(R7)	123.3km(R12)
	【成果指標】 自転車走行空間整備の満足度	19.3%(R1)	27.7%(R7)	36.0%(R12)
公共交通連携プロジェクト	〔目標〕 自転車と公共交通が連携した利便性の高い移動環境を整備し、自転車と公共交通の利用促進と過度なクルマ利用からの転換を図る			
	【活動指標】 交通結節点の駐輪場整備箇所数	52 箇所(R1)	77 箇所(R7)	87 箇所(R12)
	【成果指標】 市内駐輪場の利用者数	8,436 人/日 (R1)	9,054 人/日 (R7)	9,228 人/日 (R12)
安全・安心プロジェクト	〔目標〕 ルール遵守やマナー向上など安全・安心に自転車を利用する意識の向上を図る			
	【活動指標】 小・中・高校生や高齢者を対象とした体験型自転車安全利用教育の開催数	91 回/年(R2)	114 回/年(R7)	R7 に検討(R12)
	【成果指標】 自転車に関連する交通事故件数	428 件/年(R1)	260 件/年以下(R7)	R7 に検討(R12)
生活利用・健康プロジェクト	〔目標〕 通勤・通学、買い物など日常生活での自転車利用意識の向上と利用促進を図る			
	【活動指標】 健康ポイント事業登録者における自転車の1日あたり平均走行距離	2.9km(R1)	3.3km(R7)	3.7km(R12)
	【成果指標】 健康のために意識して身体を動かす成人の割合	男性 56.2%(H29) 女性 48.3%(H29)	63.0%(R4) 60.0%(R4)	R4 に検討 (R12)
サイクルスポーツ・ツーリズム推進プロジェクト	〔目標〕 サイクルスポーツやサイクルツーリズムを活用し自転車を楽しむ多様な機会を提供する			
	【活動指標】 自転車競技・サイクルイベントの開催数 ※「ツール・ド・とちぎ」や「ブルベ」等の令和元年度で終了したイベントの回数は除く	16 回/年(R1)	20 回/年(R7)	23 回/年(R12)
	【活動指標】 モデルルートの設定数	0 ルート(R2)	1 ルート(R7)	2 ルート(R12)
自転車のまちPRプロジェクト	〔目標〕 多様な自転車施策のPRにより自転車利用の促進と「自転車のまち宇都宮」の認知度向上を図る			
	【活動指標】 自転車に関するパブリシティ等の情報掲載件数	130 回/年 (R1)	160 回/年 (R7)	195 回/年 (R12)
	【成果指標】 「自転車のまち」の認知度	11.4%(R1)	13.2%(R7)	15.0%(R12)

